

中濃農林事務所の普及活動状況

令和3年1月31日現在

今月の重点活動

■いちご 第46回「岐阜県いちご共進会地方審査」を実施

1月22日、中濃いちご生産組合（14名）から推薦された2戸のほ場で「岐阜県いちご共進会地方審査」が実施され、地方審査長である農林事務所長と審査員の農業普及課職員等が、現地で生育状況や管理状況を審査した。

2戸のうち1戸は高設栽培、1戸は土耕栽培であるが、審査の結果、2戸ともに天候等に合わせて適正に栽培管理されていた。

今後は出荷販売実績の調査や出荷物の実物審査が行われ、総合点数により入賞者が決定される。中濃いちご生産組合から入賞者が選出され、地域の模範農家として活躍することが期待される。



【審査の様子】

（地域支援係）

売れるブランドづくり

■小麦 生育調査の実施

中濃地域では、個人農家や営農組織が約217haで小麦を栽培している。

農業普及課では、品種「さとのそら」についてJAと連携して月2回の生育調査を実施し、生育状況を把握することにより追肥の適期施用や出穂後の赤かび病の適期防除等の指導に役立っている。

また、生育状況の把握と併せて穂肥増量実証区を2カ所設置し、収量や品質等の調査を通じて施肥効果を検証するなど、良質な小麦生産に向けて引き続き支援していく。



【生育調査の様子】

（地域支援係）

■夏秋なす 個別面談研修会の開催

本年度の夏秋なす生産を反省し、次期栽培計画に繋げるため、1月26～27日に中濃夏秋茄子生産出荷組合の個別面談研修会が開催され、JA担当者、農業普及課が各生産者と個別に3者面談を行った。

農業普及課では、JAから提供された個人出荷実績、栽培・防除日誌等を基に収穫量、施肥量、防除実績などの研修資料を生産者ごとに作成し、今年度作の成績を個別に説明した。また、土壌診断データから次作ほ場の処方箋をとりまとめ、診断結果の解説や次年度作に向けた土壌改良資材施用量を提案するとともに、病虫害対策を中心に、栽培管理について次年度用防除暦を示して指導を行った。

生産者からは、硝酸イオン濃度測定結果の活用、つやなし果対策など様々な質問が出され、次年度作への意欲の高さがうかがわれた。今後も引き続き、夏秋なす生産者の所得向上に向けて生産出荷組合を支援していく。



【面談会場】

（地域支援係）